

畜産業分野

(成果情報名) 本県におけるエンバク極早生品種「スナイパー」および「たちあかね」の適応性							
(要約) エンバク極早生品種「スナイパー」および「たちあかね」は出穂期、収量および飼料品質において本県奨励品種「ウルトラハヤテ韋駄天」と同等かそれ以上の適応性があり、「たちあかね」は冠さび病における高い適応性が示唆される。							
(担当機関) 畜産研究センター					連絡先	0980-56-5142	
部会	畜産業部会	専門	栽培	対象	エンバク	分類	試験・分析および調査

[背景・ねらい]

沖縄県では暖地型牧草の利用が中心で、冬季の収量が低下するため、寒地型牧草の利用が検討されている。寒地型牧草のエンバクは、本県における冬季の生育が良いが、気温が高くなると冠さび病等の病害が発生し、収量に大きな影響が出る。そこでエンバク極早生品種における収量、飼料品質および耐病性等を調査し、本県での適応性の高い品種の選定を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「スナイパー」は本県奨励品種「ウルトラハヤテ韋駄天」より出穂が早い(表1)。
2. 「たちあかね」は11月播種において本県奨励品種「ウルトラハヤテ韋駄天」より冠さび病の被害が軽度である(表2)。
3. 「スナイパー」および「たちあかね」の乾物収量は、本県奨励品種「ウルトラハヤテ韋駄天」より劣るが、有意差は認められず、同等の収量性が示唆される(表3)。
4. 「スナイパー」および「たちあかね」は飼料品質(CP、ADF、NDF、TDN)において、有意差は認められないが、本県奨励品種「ウルトラハヤテ韋駄天」より優れる(表4)。
5. 「スナイパー」および「たちあかね」のTDN収量は、本県奨励品種「ウルトラハヤテ韋駄天」より劣るが、有意差は認められず、同等の栄養収量が示唆される(表4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 品種を選択する際の参考データとして活用できる。
2. 試験期間は2020年10月から2023年1月までの3年間実施した。
3. 試験地は沖縄本島北部の沖縄県畜産研究センター内の圃場で、土壌は国頭マージの細粒赤色土であった。

[残された問題点]

冠さび病の評価が2020年度のみであるため、冠さび病の追加の試験、評価が必要である。

[具体的データ]

表 1 調査結果①

	発芽良否 ¹⁾	初期生育 ¹⁾	冠さび病程度 ²⁾	倒伏程度 ²⁾	出穂始期 (月日)	播種～出穂ま での日数(日)
ウルトラハヤテ韋駄天	8.5	8.4	1.0	1.6	12/21	69
スナイパー	7.1	7.3	1.0	1.4	12/15	58
たちあかね	8.3	7.4	1.0	1.4	12/28	70

注 1) 1～9(極不良～極良)の9段階評価

2) 1～9(無～甚)の9段階評価

表 2 11月播種における冠さび病程度(2020)

	冠さび病程度
ウルトラハヤテ韋駄天	7.0
スナイパー	6.7
たちあかね	2.3

注 1～9(無～甚)の9段階評価

表 3 調査結果②

	草丈 (cm)	生草収量 (kg/10a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)
ウルトラハヤテ韋駄天	107 ns	2,945 ns	14.9 ns	439 ns
スナイパー	103	2,568	16.1	406
たちあかね	98	2,962	12.7	374

注 1)統計処理は Tukey 法による多重比較検定

2) ns : 有意差なし($p \geq 0.05$)

表 4 飼料分析結果

	CP (%)	ADF (%)	NDF (%)	TDN (%)	TDN 収量 (kg/10a)
ウルトラハヤテ韋駄天	15.4 ns	37.2	64.1	60.1 ns	265 ns
スナイパー	16.2	35.2	61.2	61.6	251
たちあかね	15.1	36.6	61.7	60.6	228

[研究情報]

課題 ID : 2021 畜 006

研究課題名 : エンバクにおける高能力品種選定調査

予算区分 : 試験研究費 (受託)

研究期間 (事業全体の期間) : 2020～2022

研究担当者 : 栗田夏子、玉城侑樹、平安山英登

発表論文等 : 1) 玉城侑樹、栗田夏子、平安山英登 (2021) 沖縄県畜研セ研報、No59 : 32-38

2) 玉城侑樹、栗田夏子、平安山英登 (2022) 沖縄県畜研セ研報、No60 : 53-59